

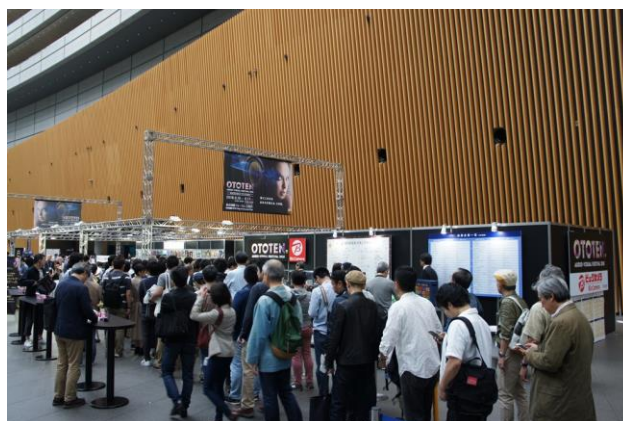
OTOTEN2018 報告

展示会実行委員会 委員長代理

末永 信一

さる6月16日、17日の2日間、有楽町の東京国際フォーラムにて、OTOTEN2018を開催致しました。梅雨時期にも関わらず天候に恵まれ、来場者は17,000人と昨年比30%アップ。大変な盛況に終わることができましたこと、主催者の一人としてお礼申し上げます。ご協力頂きました出展者の皆様、イベント運営に携わられましたスタッフの皆様には、心より感謝を申し上げます。

会期はたったの2日でも、実行委員会としては、ほぼ1年前から構想を練り、様々な準備を進めてまいりました。そんな舞台裏の話も織り交ぜながら、OTOTEN2018についてご報告をさせていただきたいと思います。



オープニングセレモニーでは、ご来賓の方々から祝辞をいただいた後、校條 会長より、会長職をバトンタッチされる小川 理子新会長（この時点では候補）が紹介され、歓迎ぶりを表わすかのような大量のフラッシュとシャッター音と共に、小川 理子さんがご登壇。公の場としては、初めて語られる小川さん自らの言葉に、会場の皆さんも静かに耳を傾けました。会長就任への思いや今後の日本オーディオ協会への期待、そして体験の場としてのOTOTEN2018を楽しんでいたきたいとの強いメッセージが印象的でした。



OTOTEN2018は、東京国際フォーラムで開催するようになって2年目。実行委員会では、昨年のOTOTEN2017をしっかりとレビューし、ご来場の皆様に「コンテンツを楽しんでいただく展示会」を合言葉に、様々な工夫を凝らしました。その一つがB1フロアです。日本レコード協会のご協力の元、LPレコードをフィーチャーして、ジャケットの展示や視聴体験コーナーを設置し、多くの来場者の注目を浴びました。



また、同じB1フロアの販促コーナーでは、協会監修「音のリファレンスシリーズ」のUSB音源とOTOTEN会場で初お披露目された「井筒香奈江 Laidback2018」の45回転180g重量盤LPレコードが販売され、関心が寄せられました。この「音のリファレンスシリーズ」のUSB音源は、先着200名の学生さんにプレゼントされたり、各メーカーブースにおける試聴体験にも活用されました。



このようにB1フロアで興味が高まったお客様が、4階・5階・6階へ上がっていただき、各メーカーブースの試聴体験を存分に楽しんでいただけたことは、間違いのないと思います。

メーカーサイドもハードウェアの売り込みに留まらず、ハードウェアとコンテンツの融合を積極的に計られていたブースが数々見られたことが、OTOTEN2018の特長だったと思います。アーティスト、評論家やエンジニアをゲストに招いて、トークショーが行われていましたし、「音のリファレンスシリーズ」に参加した演奏家たちも巡回されて、交流をさせて頂きました。



さて、日本オーディオ協会が主催する OTOTEN に無くてはならないのが、セミナーの数々です。ここでも講師の皆さんにコンテンツを楽しむ観点のテーマを語っていただくようお願いさせていただきました。

AV 評論家の麻倉 怜士先生は、自らプロデュースした 情家 みえさんの「ETRENNE」という CD について、聴き処や楽曲への想いを語られました。そのお話を伺ってもう一度 CD を聞いたら、情感がさらにアップしてとても素晴らしい音に聞こえてくるのだから、これまた不思議なものであります。



日本音楽スタジオ協会セミナーの「録音を知らないでオーディオは語れない」では、会長で録音エンジニアの高田さんがお話をされたのですが、最初にサヌカイトという楽器を知り尽くすところから入ったと聞き、キメ細かな作業の上に、「音のリファレンスシリーズ」が出来上がったもの知り、ただただ感心するお話でした。



最後にもう一つだけご紹介しておきたいセミナーがありました。講師は「SAFE LISTENING」活動をされている須山 慶太さんです。須山補聴器を母体とし、FitEar ブランドで業務用カスタムイヤーマニターやイヤホンの開発を行っておられる方ですが、難聴予防のための安全なイヤホンの使い方について語っていただきました。音圧と時間の関係 意識したいものです。



他にも、本放送開始まで半年に迫った NHK による 8K のパブリックビューイング、ハイレゾカーオーディオの展示などなど、まだまだ紹介しきれないものがいっぱいありますが、「コンテンツを楽しんでいただく」のコンセプトですべての展示や体験が有機的につながり、来場者による会場内の回遊もスムーズに行われたかと思えます。たくさんのコンテンツをいい音で楽しんでもらえたなら、主催者としてこれ以上の幸せはありません。



■ 筆者

末永 信一（ソニー株式会社）

2014 年より、一般社団法人日本オーディオ協会・展示会実行委員会に参加